

# オホーツク産森林認証材を活用した ウッドバリユーチェインの構築

## 北海道・網走西部流域における取組



### 1 網走西部流域の現況

#### (1) 森林資源の状況

網走西部流域は、北海道北東部のオホーツク海に面した7市町村（紋別市、遠軽町、湧別町、滝上町、興部町、西興部村、雄武町）からなる地域で、森林面積38万haのうち人工林が13万ha（35%）、天然林が約24万ha（62%）を

占めています（写真1）。

人工林の樹種別面積ではトドマツが63%、カラマツが22%となっており、今後はカラマツに加え、トドマツも本格的な利用期を迎えることから、出材量の増加や大径化への対応、伐採後の確実な再造林の確保に向けた取組が急務となっています。また、天然林にはミズナラ等の優良な広葉樹資源が分布しており、人工林と天然林の双方で、

資源の循環利用を目指した環境に配慮する森林づくりを継続するとともに原木の安定供給体制の構築が求められています。

#### (2) 全国一の森林認証地帯の形成

本流域では、以前から地域の森林・林業や地域材のブランド化に向けた取組を進めており、平成18年度からは「網走西部流域森林・林業活性化協議会」が中心となり、流域内の国有林、道有林、一般民有林が一体となった森林認証取得を推進してきました。この結果、流域内におけるSGEC認証森林面積は全森林面積の約85%を占める約32万haとなり、網走東部流域と合わせて全国一の森林認証地帯が形成されています（平成29年1月現在）。また地域でのCOC認証の取得も進み、認証材の供給体制が整いつつあります（写真2）。

認証材製品については、安定的に供給できる市場の確保が課題でしたが、東京オリンピック・パラリンピック競技大会での認証材の利用を契機に、首都圏を中心に認証材の活用を検討する企業が増加するなど、利用推進が図られています。

そこで本流域では、森林認証を柱とした環境ブランドの確立による林業・木材産業の成長産業化を目指し、川下から川上へのマーケットインという視点から「オホーツク産森林認証材」を活用した素材生産・加工・流通・販売の「林商工連携」による「ウッドバリユーチェインの構築」を柱とする新たな戦略を提案し、林野庁より林業成長産業化地域に選定されました。

#### (2) 地域構想の概要

本構想では、平成29年度からの5年間で次の3つの戦略に基づく取り組みを進めていきます（図1）。

#### 戦略1

付加価値を高めた製材・製品の販売促進  
・首都圏における認証材の環境価値創

### 2 林業成長産業化の取組

#### (1) 林業成長産業化地域への選定



写真1 オホーツク海を望む網走西部流域の森林



写真2 認証森林とオホーツクの森林認証材

森林資源循環に向けた新たな価値創造（ウッドバリューチェーン構築）プロジェクト  
～オホーツク発 Wood+α戦略～

成長産業の姿

森林認証を柱とした環境ブランドの確立による魅力ある林業・木材産業への転換

提案：ウッドバリューチェーンの構築（川下から川上へ）

1. 付加価値を高めた製材・製品の販売促進

【林業+α(環境価値、ツーリズム)】

①首都圏における認証材の環境価値の創出

・首都圏企業のCSRに対するマーケティング調査、セミナーの開催

②森林認証を活用した地域材ブランディング

～“森ファン” “オホーツクファン”の発掘～

・森林認証の環境価値を活かしたプロモーション

（モデルルームの活用、林業体験ツアー）



2. 林業の新たな価値創造を担う人材の育成【林業+α(マーケティング)】

①Woodコーディネーター

“川下と川上”、“森林と消費者”を結ぶ地域のキーパーソン



②林業技術者の確保・育成

“環境に配慮した森林づくりを支える確かな技術”



3. 森林資源の付加価値化にむけた原木集荷・供給システムの構築【林業+α(ICT、ものづくり)】

①適切な森林施業の確保と

木材トレーサビリティシステムの構築

- ・国有林・民有林のGISの統一【(民間)】
- ・丸太検知システムによる検知作業の効率化
- ・中間土場を活用した素材生産・流通システム【(民間)】
- ・コンテナ苗の活用及び造林作業の機械化による省力化【(民間)】
- ・高密度網作業システム



②資源の大径化に合わせた生産体制、商品開発（CLTなど）

森林認証の新しいビジネスモデルの構築

図一 1 「網走西部流域地域構想」の概要



写真一 3 企業CSR 活動へのPRセミナー（東京）



写真一 4 クラッシャーによる地拵え現地検討会



写真一 5 コンテナ苗生産施設

出、森林認証を活用した地域材ブランディング

**戦略2**  
林業の新たな価値創造を担う人材の育成

- ・川下と川上、森林と消費者を結ぶキーパーソン「Woodコーディネーター（仮称）」や次世代を担う林業技術者の育成

**戦略3**  
森林資源の付加価値化に向けた原木集荷・供給システムの構築

**3**  
取組  
平成29年度の  
網走西部流域における

- ・適切な森林施業の確保（認証森林の循環利用に向けた造林作業の低コスト化、作業システムの検討など）と木材トレーサビリティシステムの構築
- ・資源の大径化に合わせた生産体制、商品開発

初年度となる平成29年度には、3つの戦略に基づく具体的な取組を次のとおり進めました。

**戦略1**  
付加価値を高めた製材・製品の販売促進

首都圏での認証材の環境

価値の創出に向け、東京農業大学（オホーツク実学センター）へマーケティング調査を委託したほか、東京で開催されたジャパンホームショー等の展示会へ認証材製品を出展しました。平成30年3月にはオホーツク地域の認証材供給基地の魅力为首都圏の企業CSR活動にPRするため、セミナーを開催しました（写真一3）。

**戦略2**  
林業の新たな価値創造を担う人材の育成

「Woodコーディネーター（仮称）」制度の創設に向けて、ワーキンググループを立ち上げ、学識経験者を招聘して人材育成の講演会及び意見交換会を開催しました。

**戦略3**  
森林資源の付加価値化に向けた原木集荷・供給システムの構築

本流域では、平成30年度以降も地域構想に基づき、地域の関係者が連携して認証材の新たな価値の創造、安定供給体制の構築に向けた林業・木材産業の体制強化などの取り組みを進めることにより、森林所有者の林業経営意欲の増大を図り、収益を確保し、森林資源の循環利用による林業成長産業化の実現を目指します。

（網走西部流域森林・林業活性化センター）

**4**  
おわりに

造林・保育作業の効率化、省力化を進めるため、クラッシャーを使用した地拵えの現地検討会（写真一4）やコンテナ苗生産基盤施設整備（写真一5）を実施しました。